

働く幸せ

今年は暖冬で、スキー場は雪不足でどこも困っているようです。私にとっては、この業界に入ってからスキーは遠ざかっていますが……。二月は逃げるといって、年明け直後月日の早く感じる上に1年で1番短い28日しかありませんからこう呼ばれます。

ところで、なぜ2月は28日しかないのか？素朴な疑問ですが、ご存知の方は少ないのではないのでしょうか。私もその1人ですが、日経新聞に特集されていましたので、要約してご紹介します。

古代ローマでは、3月が1年の始まりで、2月が最後の月だった。当時は1年が355日で、1ヶ月を29日か31日にし、最終月の2月を28日に端数調整した名残。その後、1年を365日の暦にする過程で紆余曲折を経て、日本においては1873（明治6）年から西洋の文明を取入れ、今の暦になったそうです。それまで使っていた暦を旧暦とよび、旧正月や春分の日、秋分の日、冬至などはその名残だそうです。

確定申告のこの時期、なぜあえて一年で一番短い2月16日から3月15日の1ヶ月間なのかと、半ば恨めしく思うときもあります。しかし、今年は3月15日が日曜日の為、翌日の3月16日が期限ですので、ちょっと得したような気分ですが、そんなせこいことは考えずに、期限のあるものは、早い目早い目の準備で、早期に提出できるように努力しよう、と気を引き締めている今日この頃です。

さて、2月13日のテレビ番組「報道ステーション」で「働く幸せ」という特集があり、チヨークの製造シェア30%で日本一の、「日本理化学工業 株式会社」が紹介されていました。従業員約70名中7割以上が知的障がい（この会社では「害」という字は使っていない）者であり、適材適所、徹底した分業と標準化で障がい者でも充分仕事をこなせるよう工夫し、分かち合いの精神、今で言うワークシェアリングを長年続けているすばらしい会社です。

障がい者を雇用するきっかけになったのは、50年前に養護学校の校長から2人の卒業生を雇ってほしい、との依頼があり、当時の社長が2週間の職業体験なら、という条件で採用したのだが、2週間後に2人の一生懸命に働く姿に胸をうたれた社員が社長を取り囲み、ぜひ正社員にしてやってほしいと懇願したことが始まりのようです。そのとき少女だった女性が50年たって64歳になった今も現役の社員として働いており、笑顔で働く幸せを語っていたのが印象的でした。

この会社は、人間の幸せは4つに集約されるといい、①人から愛されること、②人の役に立つこと、③人から褒められること、④人から必要とされること、を理念に掲げています。働くことによって、②～④は満たされ、「働くとは人が動くと書く」、との会長さんの言葉に感銘を受けました。障がい者の平均月給は12万円だそうです。お金の他にも「働く」ことに価値があることを教えられたような気がします。ここの工場長さんは、一生懸命働く社員から勇気もらい、ホタテの貝殻を再利用したチヨークを開発し、高いシェアを維持しています。

美談の陰には図り知れない御苦労があったとは思われますが、一定の業績を維持し、多くの障がい者の方々に働く幸せを提供し、資源の再利用までこなす、すばらしい会社だと思います。

未曾有の不況の荒波の中、派遣切りや人員削減が多く行われて、健常者でさえも仕事がなかなか見つからない昨今です。企業＝お金儲け、だから仕方がないといついつい考えられがちですが、お金儲けよりももっと大切なものがあるのでは、企業の役割とは……。改めて考えさせられた心温まる良いお話でした。